

令和9年度より

市町の子宮頸がん検診に

「HPV検査単独法」を導入します！

検診間隔

2年ごと

5年ごと

受診方法や検診手順は従来どおりです

対象

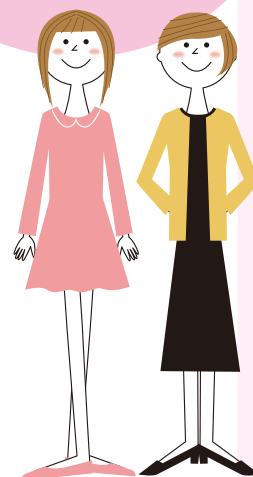
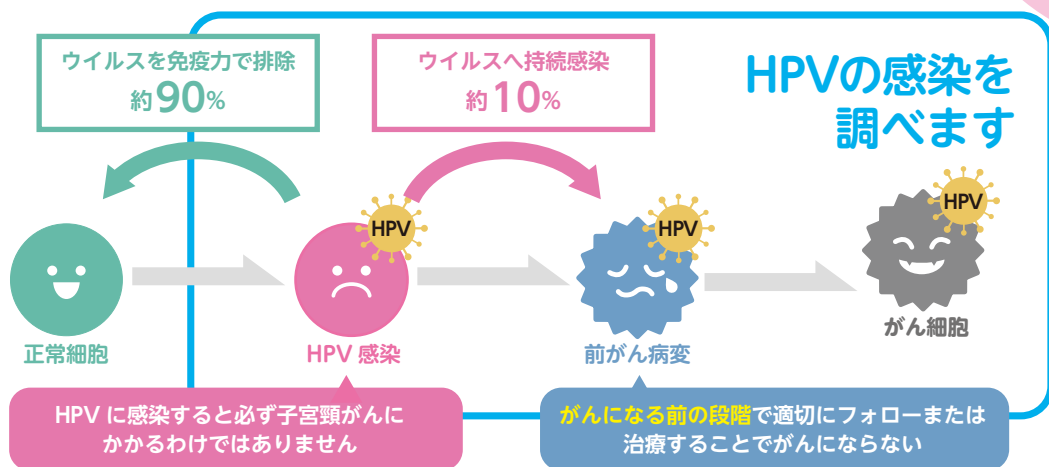
福井県内在住  
30～60歳の女性

※市町のがん検診が対象

※20～29歳、61歳以上の方は、  
今までの検診と変わりません

子宮頸がんの多くはHPV (ヒトパピローマウイルス) が原因で、  
性交経験のある30代から50代の方が多くかかっています。  
HPVの感染は無症状でほとんどは1～2年で自然になくなりますが、  
一部は持続して、がんのリスクを上げる場合があります。

### HPV感染と子宮頸がんの発生の流れ



HPV検査  
単独法

陰性

次回は5年後

陽性

細胞診検査

精検 or 1年後

「HPV検査単独法」は世界保健機関 (WHO) が認めた科学的な根拠に基づく検査方法です

- HPV感染の有無を調べることで、早い段階のリスクがわかります。
- 子宮頸部から細胞を採取し、HPVに感染しているかどうか調べる検査です。
- HPV検査陽性の場合、トリアージ検査として細胞診を行います。  
その場合、HPV検査の残余検体を使用するため、再度の受診は不要です。



国立がん研究センター WEB

詳しい情報はこちら  
必ずご確認ください



国立がん研究センター WEB

がん検診をこれから  
受ける方、受けた方へ

※詳しくはお住まいの  
市町のホームページ  
をご確認ください

